

プログラム日程

第9回 日本静脈経腸栄養学会 九州支部学術集会

会期：2017年10月7日（土）

会場：JR九州ホール[9F]

当番世話人：霧 知光（雪の聖母会聖マリア病院 臨床・教育・研究本部長）

9:30~9:35(5分)	開会の辞 当番世話人：霧 知光（雪の聖母会聖マリア病院 臨床・教育・研究本部長）
9:35-10:25(50分)	教育セミナー 1 薬剤師から見た輸液療法の変遷-激変する輸液の考え方- 井上 真（社会医療法人敬和会大分岡病院薬剤部） 司会：伊東 弘樹（大分大学医学部附属病院 薬剤部 部長）
10:25-11:15(50分)	教育セミナー 2 口腔ケアをもう1度考え直す-NSTにおけるその意義と実践- 豊福 司生（雪の聖母会聖マリア病院 歯科系統括本部長・歯科口腔外科診療部長） 司会：下地 英明（琉球大学医学部消化器・腫瘍外科学講座）
11:15-11:50(35分)	休憩（+世話人会：会議室3）
11:50-12:50(60分)	ランチョンセミナー 経口補水療法の基本と応用-小児急性胃腸炎診療ガイドラインから急性肝不全まで- 十河 剛（済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科 副部長） 司会：霧 知光（雪の聖母会聖マリア病院 臨床・教育・研究本部長） 共催：株式会社 大塚製薬工場
12:50-13:00(10分)	総会 当番世話人：霧 知光（雪の聖母会聖マリア病院 臨床・教育・研究本部長）
13:00-14:00(60分)	特別講演 臨床研究の倫理-患者と医療従事者の関係とは- 五十川 直行（九州大学大学院法学研究院 法学部 教授） 司会：田中 芳明（久留米大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授）
14:00-14:15(15分)	休憩
14:15-15:05(50分)	一般演題 （10分×5題）（口演6分、質疑4分） 座長：加治 建（鹿児島大学 小児外科学講座） 石井 信二（久留米大学医学部外科学講座 小児外科部門） 1 適正な投与速度による脂肪乳剤投与への啓発活動の評価 長嶋フクエ、黨久瑠美、小野沙織、岩屋祐子、霧 知光 （社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 薬剤部、栄養指導管理室、臨床・教育・研究本部） 2 血液内科病棟でのNST支援 池田真由美、永松あゆ、富野真美、川口 巧、石井信二、岩崎昌子、田中芳明 （久留米大学病院栄養治療部、栄養部、看護部、消化器内科、小児外科、医療安全管理部） 3 重症患者へ身体的負担軽減に向けた栄養管理-看護師の役割- 中野利香 （堺市立総合医療センター） 4 短腸症候群患者に対するペプタメンAFの使用経験 源嶋夏美、百枝優里、平野 惣、平田景子、一ツ松薫、一ツ松勤 （新古賀病院 NST） 5 術前治療を施行した食道癌患者の治療前栄養スコアの検討 尾本 至、内門泰斗、佐々木健、奥村 浩、大脇哲洋、前村公成、夏越祥次 （鹿児島大学 消化器・乳腺甲状腺外科学、地域医療学離島へき地医療人育成センター）
15:05-15:55(50分)	教育セミナー 3 認知症の摂食障害とその対応-食べてもらえないとき、現場で困っていませんか？- 吉田 貞夫（沖縄メディカル病院 副院長・金城大学客員教授） 司会：野上 哲史（熊本第一病院 院長）
15:55-16:00(5分)	次期当番施設挨拶 当番世話人：下地 英明（琉球大学医学部消化器・腫瘍外科学講座） 閉会の辞 当番世話人：霧 知光（雪の聖母会聖マリア病院 臨床・教育・研究本部長）

第9回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会を終えて

平成29年10月7日土曜日は素晴らしい好天に恵まれ、気持ちの良い秋晴れの中、第9回の日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会を開催させて頂きました。先ずは終末のお忙しいところ本学会にご参集頂きました会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。最終的には医師25名、歯科医師3名、栄養士180名、薬剤師121名、看護師176名、臨床検査技師13名、リハビリ関係35名、歯科衛生士4名、学生3名、その他3名の参加者内訳で、総数562名ものご参加を頂きました。昨年よりは若干少ない印象でしたが、会場は各セッション毎に大いに盛り上がった感がありました。

今回はメインテーマを『栄養管理も臨床研究も、もう1度見つめ直そう』とさせて頂きました。抄録集の巻頭言にも書きましたが、本学術集会も来年は10回目を迎え、学術的な発展がさらに期待されております。JSPEN本会もそうですが、未だ多職種間での学術レベルの不均衡が解決できたとは言い難いものがありますし、地道にレベルアップを図り、それを継続していかなければ我々の学術活動も意味のないものになります。そこで少しだけ立ち止まり、解ったと思っている事でも復習して確認し直そうという意味合いでテーマを決めました。

特に教育講演3本立てでは、始めに大分の井上先生が最近の輸液療法の変遷を薬剤師の視点から高度な内容にもかかわらず、分かり易く解説して頂きました。今まで輸液が苦手だった職種の皆さん方も、良く理解できたのではないかと思います。また、私が所属します聖マリア病院歯科口腔外科の豊福先生には口腔ケアの基礎的な考え方と実践法のベースラインをユーモアたっぷりに講演して頂き、会場も大いに盛り上がっていました。最後の吉田先生はご自身お笑いライブとおっしゃるように、認知症患者の栄養管理における対応のコツをこれまた会場大爆笑のうちにご講演頂き、最後のプログラムであったにもかかわらず、ほぼ満員の参加者で盛り上がりました。盛り上がりすぎて、時間が足らなくなったのは実に残念でしたが、別の機会にゆっくり全編を拝聴したいと考えた次第です。

特別講演には臨床研究の中でも特に重要な「医療倫理・個人情報保護・医療安全」等、理解しているようで実は何も知らない部分の内容を九州大学法学部の五十川直行先生に法学者の立場から分かり易く解説頂きました。先生のお人柄か、とても難しい高度な内容であったにもかかわらず、丁寧な言葉で語られる法律

用語一つ一つが思いのほか分かり易く、会場全員がなるほどと大きな感銘を受けていたようでした。

またランチョンセミナーでは、私とともに長年経口補水療法の研究を行っている戦友とも言える十河剛先生に、小児急性胃腸炎ガイドラインを中心に経口補水療法の基礎を分かりやすく話して頂きました。以上、一般演題5題を含めて、幅広い内容にもかかわらず、参加して頂いた皆様の一助になったのではないかと思う次第です。本学会の内容が、明日から皆様方の臨床栄養の現場でお役に立てれば、当番世話人としてこれ以上の喜びはありません。

最後になりましたが、本学術集会開催にご尽力頂きました久留米大学の田中芳明先生はじめ、世話人の先生方、毎年細やかなお手伝いを頂きます九州支部事務局の関係者の皆様、ご協力頂いた各企業の皆様方に心より厚く御礼を申し上げます。

雪の聖母会聖マリア病院
臨床・教育・研究本部長
靄 知光